

3年連続で「健康経営優良法人」に認定

当社は経済産業省と日本健康会議が共同で選定する「健康経営優良法人(大規模法人部門)」に3年連続で認定されました。健康経営優良法人認定制度とは、地域の健康課題に即した取り組みや日本健康会議が進める健康増進の取り組みをもとに、特に優良な健康経営を実践している法人を顕彰する制度です。

当社は、2018年6月1日に「健康経営宣言」を制定すると共に、以下の取り組みを行っています。

- (1) 多様な働き方に応じた勤務体制
- (2) AED普及活動キャンペーンの実施
- (3) 健康関連イベントや、食生活の改善、運動機会増進の取り組み

今後も、社員の健康増進に向け継続的に健康経営を推進し、企業としての持続的成長を目指します。



ECサイト『ライフネル』の御案内

当社はイントラプレナー(社内起業家)制度を通じて、社員のビジネス提案・アイデア実現の挑戦を後押ししています。その一つとして、社会に役立つ商品をメインに扱うECサイト『ライフネル』の運用を昨年5月よりスタートしました。

『ライフネル』は「Life(快適生活)」「Health(健康)」「Care(介護)」「Focus Now(いまに焦点)」の4つのカテゴリから構成され、人にやさしい・環境にやさしい・厳選した商品とサービスを提供するサイトです。

今後もお客様に寄り添える、良い商品を紹介していきます。



サンワテクノス株式会社

東京都中央区京橋3-1-1 東京スクエアガーデン18F
TEL.03-5202-4011 FAX.03-5202-4054

UD FONT

見やすいユニバーサルデザイン
フォントを採用しています。



株式会社プロネクサス 印刷

株主通信

第75期 2022年度報告 (2022年4月～2023年3月)

サンワテクノス株式会社

証券コード8137





代表取締役会長 田中 裕之

【特別対談】

第11次中期経営計画「SNS 2024」完遂と Sun-Wa Vision 2030の実現に向け グループ全社員で果敢に挑戦し続ける



Message
株主の皆様へ



代表取締役社長 松尾 晶広

サンワテクノスでは2023年6月27日開催の取締役会にお田中裕之代表取締役会長兼社長のバトンを受け継ぎ、代表いたしました。特別対談では、ここ数年のサンワテクノスの100周年に向けた思いを語り合いました。

いて、第11次中期経営計画「SNS2024」を牽引してきた取締役専務執行役員の松尾晶広が代表取締役社長に就任事業の進化・実績や明確化された強み、本計画完遂と創立

激しい環境変化のなかで 着実に地歩を固める

田中■顧客セグメント戦略とサステナビリティ経営、営業利益にフォーカスした数値目標の3つを骨子として、昨年4月にスタートした「SNS2024」の1年目は、営業利益約76億円と、計画の最終目標値(70億円)を超えました。コロナ禍、ウクライナ侵攻を背景とした商品不足とサプライチェーンの混乱のなかで、当社の強みであるグローバルでのサプライチェーンのサービスが頼られ、短期間で変動した為替も大きくプラスに作用しました。また、事業ドメインであるものづくりの設備投資も伸びています。

ただしこの好業績は、特に為替変動や物不足による先行受注などの環境影響によるところが大きいと、計画2年目は、お客様の在庫調整などの反動を踏まえて営業利益目標(55億円)を掲げました。最終的に、半導体装置関連などの設備投資が見込まれる最終年度に計画当初の営業利益70億円を確実に

に達成して「SNS2024」を完遂したいと思います。

松尾■その数値目標を実現するための重点施策である顧客セグメント戦略の手応えを感じた1年目でした。当社の強みである地域密着の拠点営業と共に、経験値を持つ営業担当者が専門知識や過去の成功事例などを全国に横展開することで、これまで実績がなかったお客様との新たなお取引が生まれるなど、確実な成果につながっています。

また、企業の使命であるサステナビリティ経営については、自社の省エネ・省資源はもちろん、従来から取り組んでいる太陽光発電関連をはじめ、再生エネルギーのビジネスチャンスを捉え、優れた製品の提供を通して、環境に配慮したお客様のものづくりに寄与する事業基盤整備が進みました。

田中■エネルギーについては、皆さんが実感されている通り電気料金が急激に上がるなかで、今後、エネルギーの使用状況をみえる化して管理する「エネルギー・マネジメントシステム(EMS)」のチームを立ち上げて、お客様の課題解決に取り組む予定です。

イノベーションなくして 真のグローバル化はない

田中■当社では、顧客ニーズを満たす新たなソリューションの提供を強化するため、今年4月に「イノベーション本部」を設置しました。従来からの「エンジニアリング」という概念をリノベーションして、ソリューションとエンジニアリングを包含する広い視野で可能性を追い求めるのが狙いです。

松尾■同本部が主導して、注力分野と得意分野に絞って当社の保持する強みをさらに発揮し、あわせてM&Aや先端企業への投資にも力を入れて新たな価値づくりをしていきたいと思っています。

一方、海外に目を転じると、現在、中国以外の地域は日系企業とのお取引に限定されています。2030年に向けた長期ビジョン「Sun-Wa Vision 2030」のミッションにある「世界中の技術をつなぐ」を実現させるには、世界各国の優良企業とのお取引が不可欠です。イノベーション本部と顧客セグメント戦略を融

合させ、新規取引につながる魅力ある商品を生み出していきたいですね。お取引の実現を通して現地優良企業が持つ優れた商品情報を収集し、それをグローバルに展開していくことで「世界中の技術をつなぐ」ことができます。あわせてRPA(※1)などのDXを推進し「つなぐ」ためのインフラをつくり、グローバルサプライチェーンの強靱化を図ります。

※1 Robotic Process Automation。パソコンで行う事務作業を自動化するソフトウェアロボット技術。

夢のある議論を通して 創立100周年をデザインする

田中■当社は来年創立75周年を迎えます。100周年にあたる25年後を視野に入れて一昨年から次世代リーダー候補者による「サンワ100年を描く未来討論会」を開催し、次世代を支える年代のメンバーが継続的にディスカッションしています。人口減少などの共通認識とは別に、私は「空飛ぶ自動車の時代」など、ユニークなアイデアが出てほしいと思っていますが、今のところ

現実的なアイデアが多い(笑)。夢のある議論をする良い時期だと思いますし、未来に思いを馳せるバックカasting思考を身につけてほしいと考えています。

松尾 ■ 未来への思いとしては、各海外拠点が現地に根付き、ローカル社員が幹部になるような現地化を進めていきたいと考えています。ダイバーシティ(多様性)を実現し、国内外の全拠点で多様な国籍の人たちが情報や意見を交換できる環境をつくりたいと思います。

現在、海外拠点の将来の幹部候補の育成のために「グローバルネクストリーダー研修」を実施しています。ローカルと国内から選抜されたメンバーが対象です。そうしたメンバーがさらに活躍できる場をつくることができれば、当社ももう一段階レベルの異なる動きができるのではないかと考えています。

田中 ■ 将来的に、そうしたメンバーが海外現地法人の社長になり、いわゆる多国籍企業として自立自営して欲しいですね。

良きDNAを継承しながら 時代を先取りする変革を

田中 ■ 社長就任時に、私は「不易流行(※2)」を経営の旨としました。松尾社長にも、当社の良いDNAを継承しながら、変えるべきところは変える大胆さを持って前進してもらいたと思います。

松尾社長と私の役割という点では、社長と会長が縦割りに分業するのではなく、松尾社長に国内外全事業の戦略の実行と業績の向上に集中してもらい、私は社会に向けて当社グループのブランド力を高める取り組みに専念します。

また、サステナビリティ経営で今後重要になるのが社員エン

ゲージメント施策です。昨年より社員と直接対応する機会としてタウンホールミーティングを始めました。女性の活躍推進、評価制度の見直しなどに加えて、現在労働人口の流動化が進むなかで、経験者採用を活性化させる土壌、企業文化をつくらなければなりません。松尾社長にはその点も期待しています。

松尾 ■ 長年、中国市場での経営を担っており、このまま上海で勤め上げるものと認識していましたが、2年前に本社に帰任しました。その後もまさか社長になるとは思ってもいませんでしたので、お話をいただいたときは正直なところ驚きました。責任の重さに身の引き締まる思いです。

引き続きご指導いただきながら、将来に向けて成長続ける会社づくりに邁進していきます。

※2 伝統など変わらないものを大切にしつつ、時代に応じて新しいものを取り入れていくこと。



社長就任のご挨拶

攻めの経営戦略を引き継ぎ 目指すビジョンを実現します

代表取締役社長 松尾 晶広
社長執行役員

株主の皆様には、日ごろより格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

田中裕之会長が社長として6年間経営を牽引され、特に任期後半は組織の再編と新設を果敢に進め、新たなビジネスに挑戦し続ける強靱な経営基盤、ビジネス展開の土壌をつくっていただきました。その経営戦略を継承し、私なりの工夫を加えながら「SNS2024」の目標を達成し、当社の目指すビジョンを実現させていきたいと思っています。グローバルサプライチェーンのプロフェッショナルとして、お客様の生産最適化への貢献を果たし、健全性・効率性・透明性の高い経営を実践してまいります。

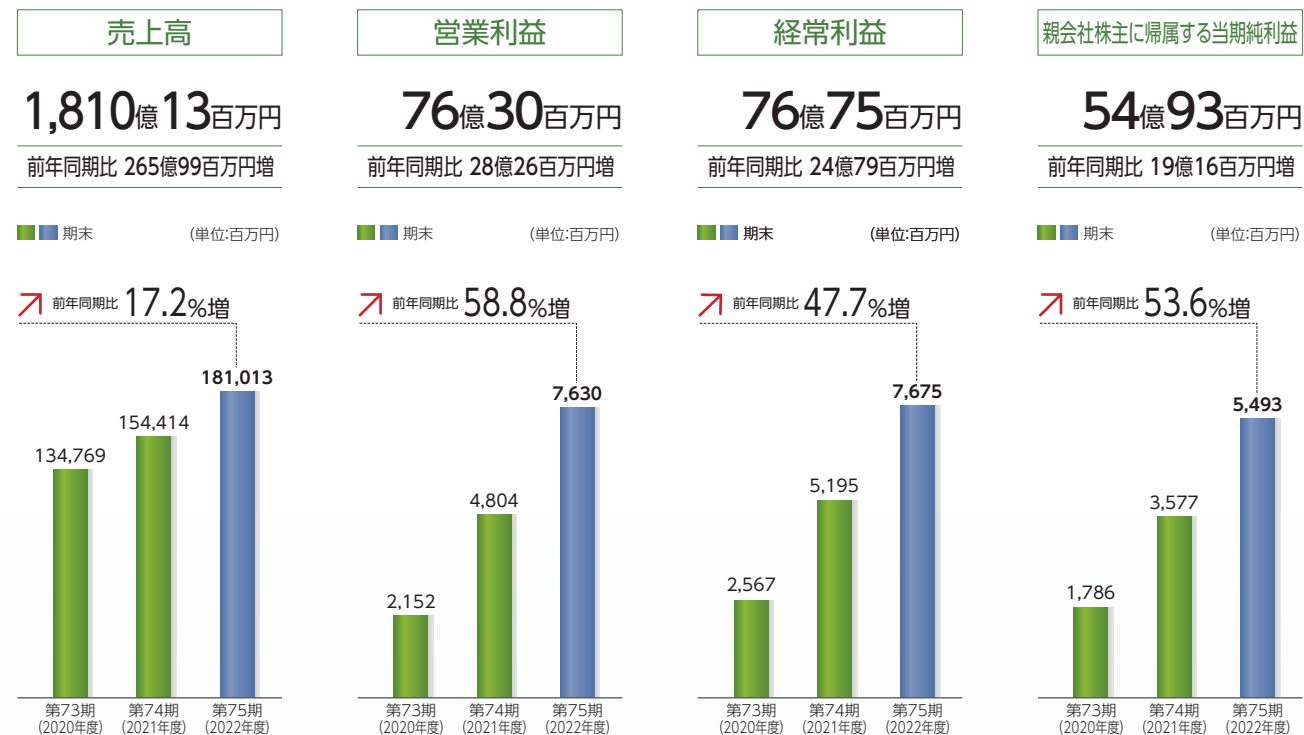
当社では、今年5月に「SNS2024」の追加施策として、PBR(株価純資産倍率)1.0倍超の早期実現を目指す取り組みを加えました。資本収益性の向上と株主還元の充実、IR・SR活動の拡充を図ります。またあわせて、資本効率の向上と機動的な資本政策を実行する目的で自己株式の取得を行いました。

株主の皆様におかれましては、引き続き一層のご支援を賜りますよう、今後ともよろしくご挨拶申し上げます。

PROFILE

- 1961年8月11日生まれ
- 1984年 4月 当社入社
- 2011年10月 電子営業部長
- 2015年10月 上海サンワテクス董事副総経理(出向)
- 2018年 4月 執行役員
上海サンワテクス董事総経理(出向)
- 2020年 6月 取締役上席執行役員
中国地域統括部長
アジア太平洋地域統括部長
上海サンワテクス董事長総経理(出向)
サンワテクスシンガポール取締役社長
サンワテクスマレーシア取締役社長
サンワテクスインドネシア取締役社長
サンワテクスフィリピン取締役社長
- 2021年 6月 営業本部電子部門長(現任)
- 2022年 6月 代表取締役専務執行役員
- 2023年 6月 営業本部長(現任)

- 好きな言葉 ○ 向上心
- モットー ○ 知恵を出し工夫を加えて、強く実行する
- 休日の過ごし方 ○ ゴルフ
- 趣味 ○ ドライブ(近場で楽しんでいます)



決算ハイライト

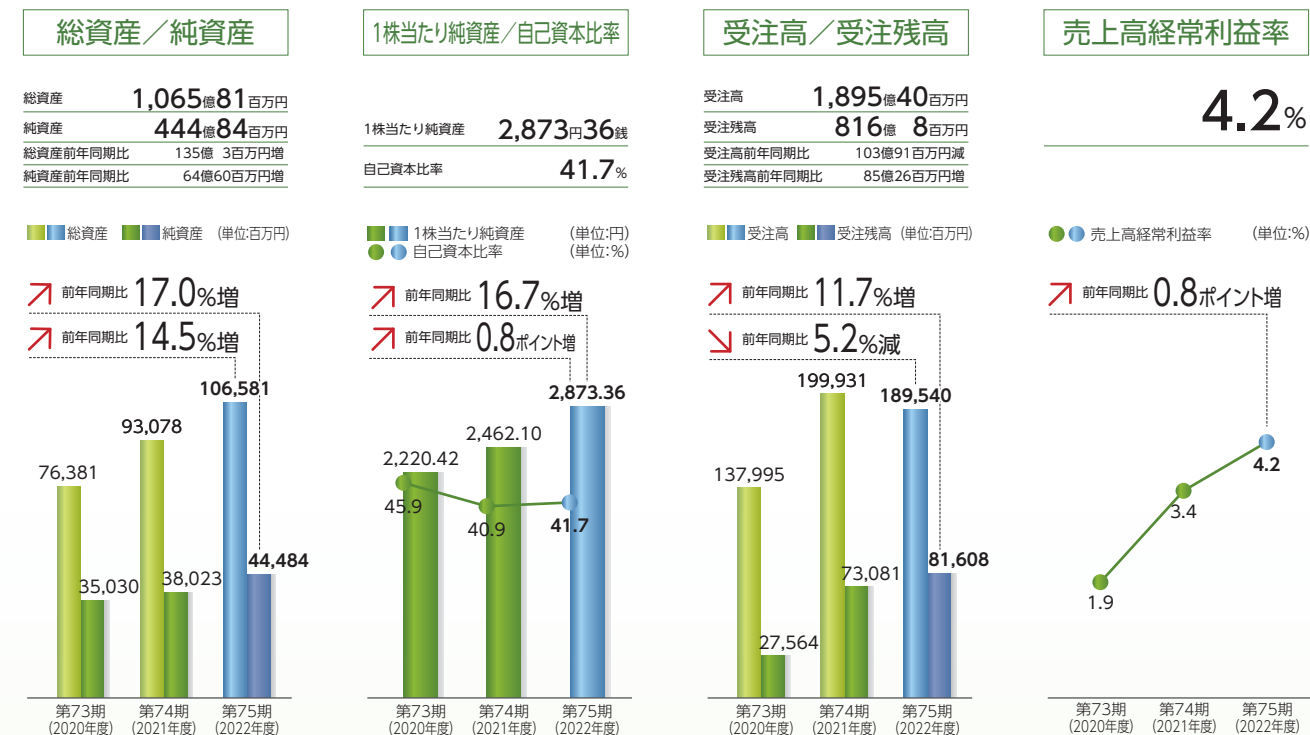
当連結会計年度における我が国の経済は、コロナ禍からの正常化が進んだことによる個人消費や企業の設備投資の増加がみられましたが、物価高や各国の景気減速の影響により経済成長は鈍化しました。世界経済については、コロナ禍におけるデジタル関連特需が一巡したことや、各国の金融引き締めにより、経済成長が減速しております。中国では上海ロックダウン以降、景気が回復しておりましたが、個人消費の低下や輸出の減少がみられます。アメリカでは、インフレや金融引き締めが景気を下押ししておりますが、個人消費や企業の設備投資は継続して増加しております。

当社グループの関連しております産業用エレクトロニク

ス・メカトロニクス業界におきましては、5Gの普及・電気自動車（EV）化の推進、再生可能エネルギーへの注目の高まりにより、半導体関連・自動車関連・太陽光関連などの市場で積極的に設備投資が行われました。また、製造業の生産拠点見直し、人手不足対策・省人化を目的とした設備導入も行われました。一部の業界では在庫過多による手配調整の動きがみられますが、需要は高い水準で推移いたしました。

このような環境のなか、当連結会計年度の業績は、為替の影響による増収もあり過去最高を更新する結果となりました。

(注) 第74期(2021年度)より「収益認識に関する会計基準」等適用後の数値を記載しております。



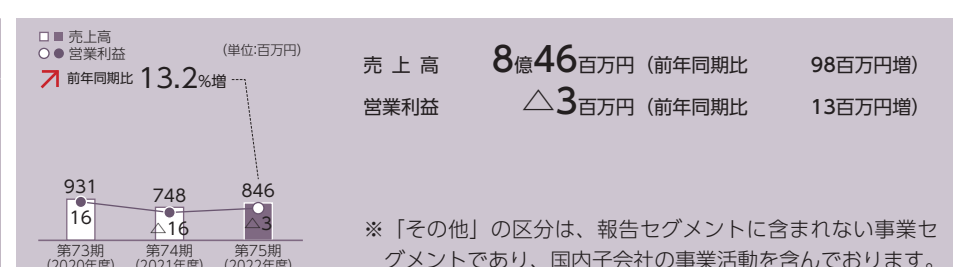
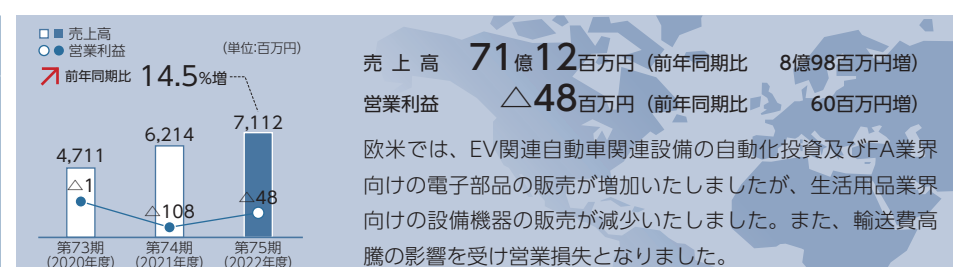
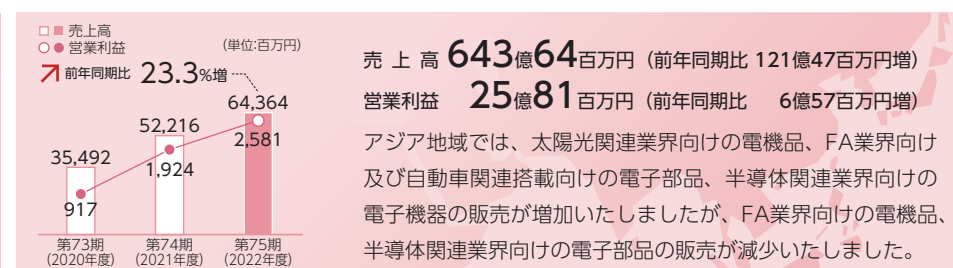
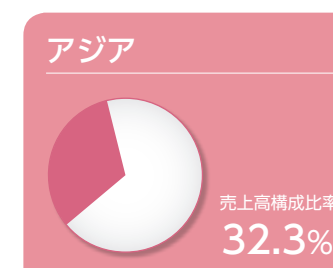
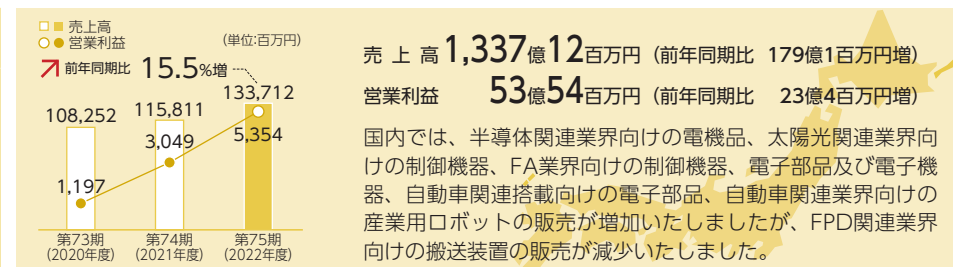
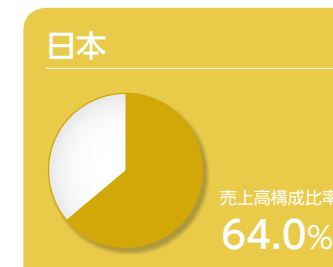
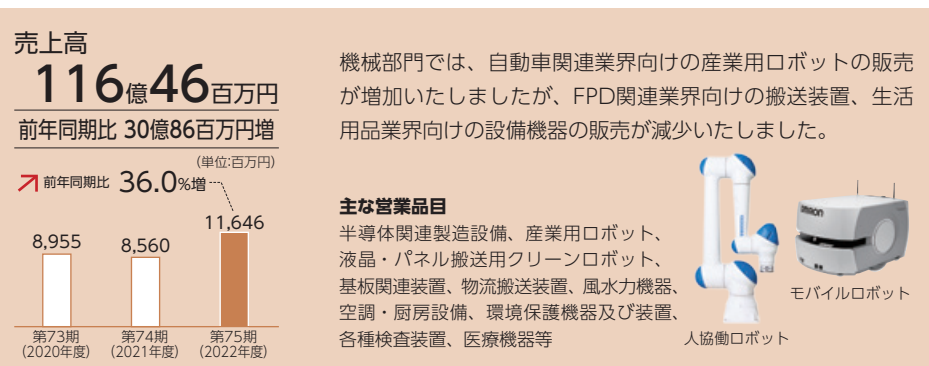
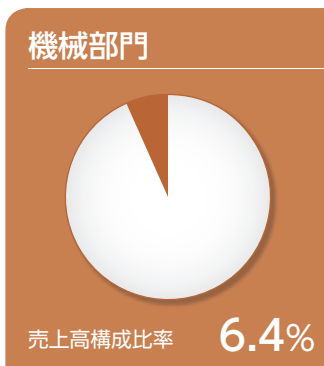
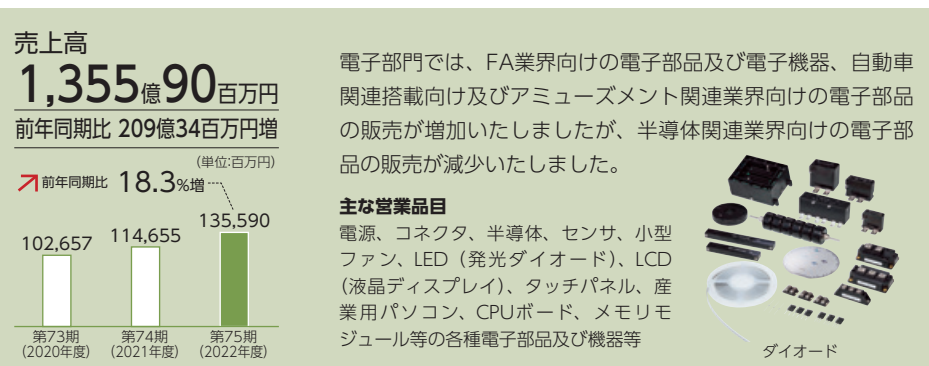
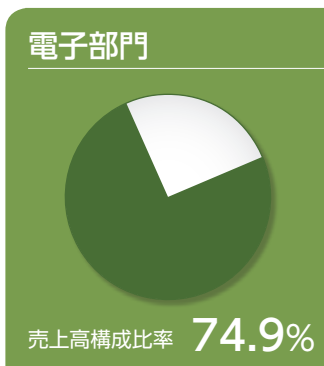
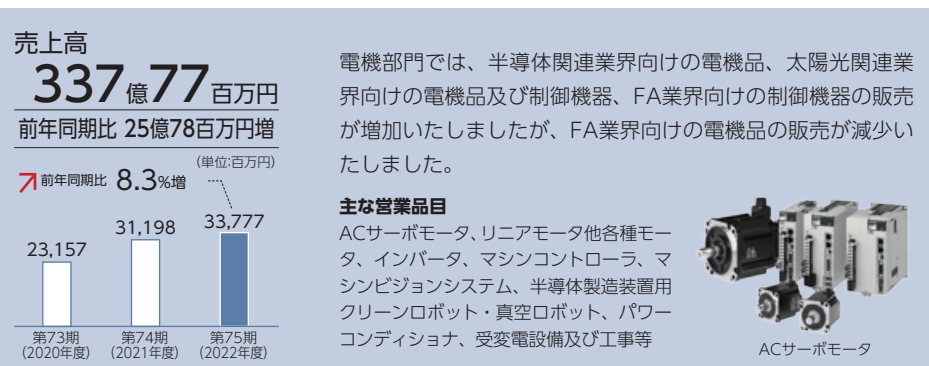
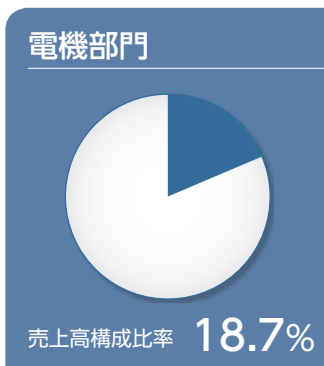
次期の見通し

次期の見通しにつきましては、インフレや金融引き締めの落ち着きと中国のゼロコロナ政策解除による経済活動再開を背景に、景気の回復が続くとみられます。また、電気自動車（EV）化の推進、カーボンニュートラルの実現、人手不足対策を目的とした設備投資が継続することも期待されます。しかしながら、地政学的なリスク、原材料やエネルギー価格の高騰、為替変動、米中の輸出規制強化等の影響は不確実性が高く、景気に関する先行きは不透明な状況が続くと見込まれます。さらに、需給逼迫にも改善がみられることで、在庫過多による手配調整が行われることも想定されます。

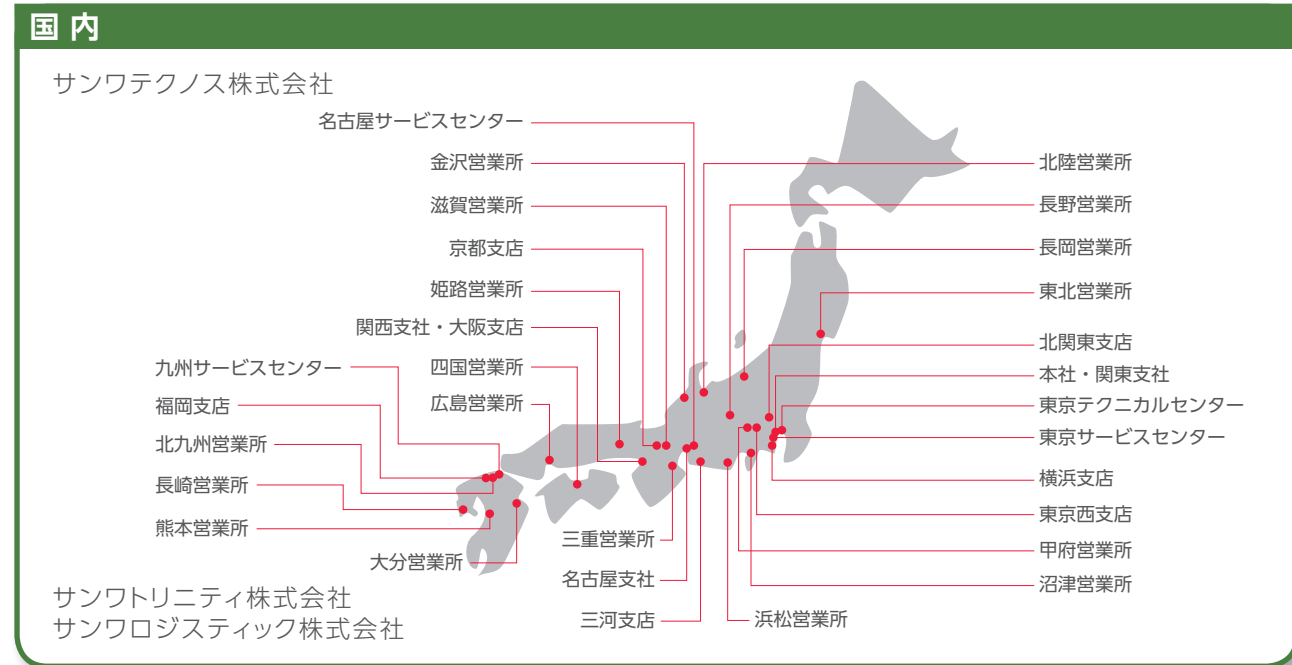
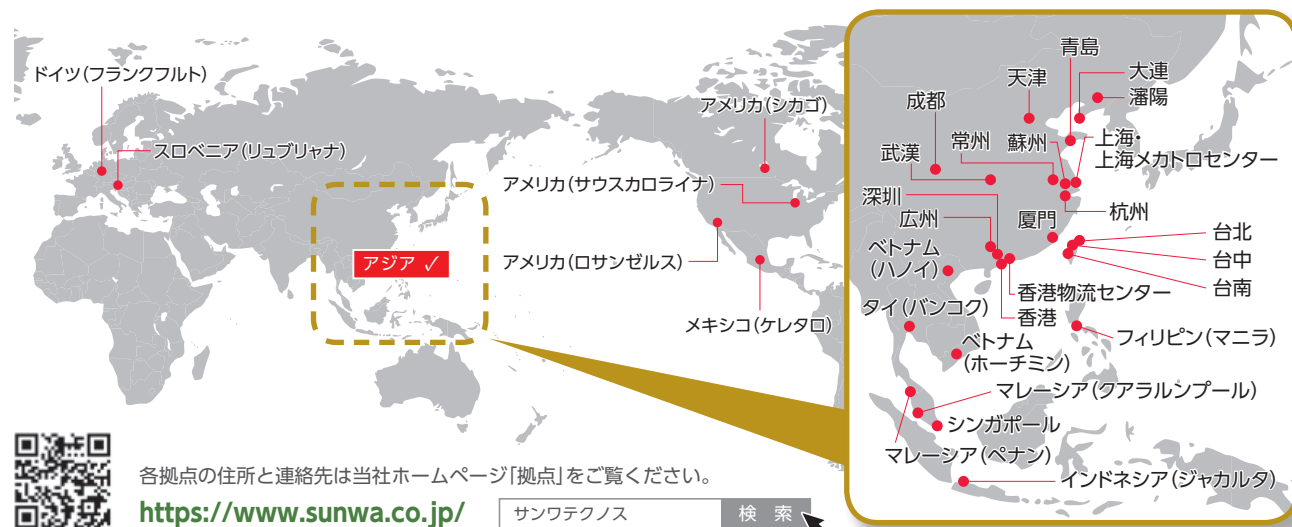
第76期 通期業績予想

売上高	175,800百万円 (前年同期比2.9%減)
営業利益	5,510百万円 (前年同期比27.8%減)
経常利益	5,690百万円 (前年同期比25.9%減)
親会社に帰属する当期純利益	3,950百万円 (前年同期比28.1%減)
1株当たり当期純利益	255円14銭

(注) 業績予想につきましては、2023年5月8日現在における入手可能な情報に基づいて算出しておりますが、今後の様々な要因により予想と異なる結果となる可能性があります。



(注1) 売上高構成比率は外部顧客に対する売上高から算出しております。
(注2) 上記の売上高の数値につきましては、セグメント間の内部売上高又は振替高を含む売上高で表示しております。



連結貸借対照表

(単位：百万円)

科目 / 期別	前期	当期
	2022年3月31日現在	2023年3月31日現在
(資産の部)		
流動資産	82,209	94,263
固定資産	10,868	12,318
有形固定資産	2,230	2,272
無形固定資産	226	221
投資その他の資産	8,411	9,824
資産合計	93,078	106,581
(負債の部)		
流動負債	52,797	59,870
固定負債	2,257	2,227
負債合計	55,054	62,097
(純資産の部)		
株主資本	33,277	38,202
その他の包括利益累計額	4,746	6,282
純資産合計	38,023	44,484
負債及び純資産合計	93,078	106,581

連結損益計算書

(単位：百万円)

科目 / 期別	前期	当期
	2022年4月1日 皇 2022年3月31日	2022年4月1日 皇 2023年3月31日
売上高	154,414	181,013
売上原価	135,642	157,974
売上総利益	18,772	23,039
販売費及び一般管理費	13,967	15,408
営業利益	4,804	7,630
営業外収益	493	604
営業外費用	102	560
経常利益	5,195	7,675
特別利益	82	34
特別損失	54	-
税金等調整前当期純利益	5,223	7,709
法人税、住民税及び事業税	1,759	2,290
法人税等調整額	△ 113	△ 74
当期純利益	3,577	5,493
親会社株主に帰属する当期純利益	3,577	5,493

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科目 / 期別	前期	当期
	2022年4月1日 皇 2022年3月31日	2022年4月1日 皇 2023年3月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	792	△ 545
投資活動によるキャッシュ・フロー	244	△ 731
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 580	906
現金及び現金同等物に係る換算差額	478	466
現金及び現金同等物の増減額	935	95
現金及び現金同等物の期首残高	12,629	13,565
現金及び現金同等物の期末残高	13,565	13,661

会社の概要

(2023年3月31日現在)

商号 サンワテクノス株式会社
 本社所在地 〒104-0031 東京都中央区京橋3-1-1 東京スクエアガーデン18F
 設立年月日 1949年11月4日
 資本金 37億2,700万円
 発行済株式の総数 16,044,000株
 従業員数 598名 (連結1,060名)
 ホームページ <https://www.sunwa.co.jp/>
 事業内容 メカトロニクス関連電気機器及び装置、プラント用電気品、電気設備機器の販売及び電気設備工事
 各種電子部品・電子機器、各種OA機器、FAシステム、通信・情報機器等の販売
 半導体関連製造設備、産業用ロボット、クリーンロボット、基板関連装置、物流搬送装置、風水力機器、各種検査装置、医療機器等の販売

役員

(2023年6月27日現在)

取締役
 代表取締役会長 田中裕之
 代表取締役社長 松尾晶広
 社長執行役員 上坂秀昭
 取締役常務執行役員 平野隆士
 取締役上席執行役員 越後洋一
 取締役執行役員 草薙一郎
 社外取締役 坂本敦子
 取締役(常勤監査等委員) 花山一八
 社外取締役(監査等委員) 山口 章
 社外取締役(監査等委員) 康 理恵

執行役員
 上席執行役員 宮崎一彦
 執行役員 玉木克也
 執行役員 西田勝幸
 執行役員 的場孝成
 執行役員 遊佐浩司
 執行役員 吉井一浩

株式の状況

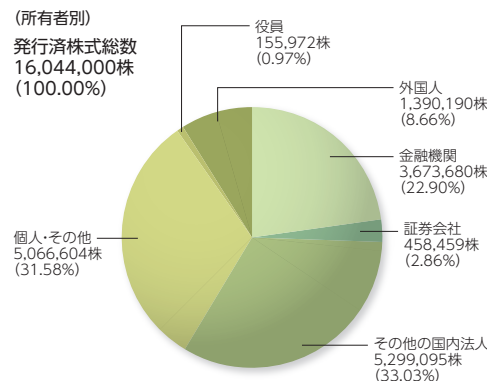
(2023年3月31日現在)

- 発行可能株式総数 33,380,000株
- 発行済株式の総数 16,044,000株
- 株主数 4,116名
- 大株主

株主名	持株数	持株比率
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,324,900 株	8.55 %
光通信株式会社	1,179,500	7.61
株式会社安川電機	797,280	5.14
第一生命保険株式会社	729,960	4.71
株式会社UH Partners 2	659,700	4.26
株式会社オリジン	498,000	3.21
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	459,200	2.96
オークマ株式会社	435,600	2.81
山田 益二郎	397,400	2.56
株式会社りそな銀行	395,160	2.55
株式会社三菱UFJ銀行	395,160	2.55

(注)「持株比率」は自己株式(562,331株)を控除して計算しております。

5. 株式の分布状況



株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
 定時株主総会 毎年6月
 上記基準日 毎年3月31日
 株主名簿管理人及び特別口座の口座管理機関 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
 株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
 事務取扱場所 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
 郵便物送付先

電話照会先 電話 0120-782-031 (フリーダイヤル)
 受付時間 9:00~17:00 (土日休日を除く)
 公告方法 電子公告の方法により行います。
 ただし、事故その他やむを得ない事情によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。
 公告掲載 URL (https://www.sunwa.co.jp/ir_info/index.html)

【株式に関する住所変更等のお手続きについてのご照会】

証券会社の口座をご利用の株主様は、三井住友信託銀行株式会社ではお手続きができませんので取引証券会社へご照会ください。

2023年度 経営方針 (中期経営計画2年目)



Sun-Wa New Stage

2023年度 方針

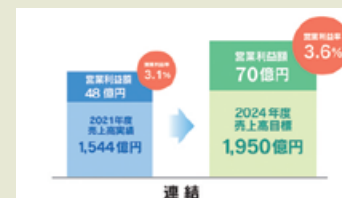
第11次中期経営計画 経営目標<連結>

企業価値の向上

2024年度 営業利益70億円達成

PBR(株価純資産倍率) 1.0倍超の早期実現を目指す

最重要経営指標を『売上高』から『営業利益』とする



連結	営業利益額	営業利益率	売上高
2024年度目標	70 億円	3.6%	1,950 億円
2021年度実績	48 億円	3.1%	1,544 億円

2023年度 経営方針

グローバルサプライチェーンの
 プロフェッショナルとして
 “つながり”と“信頼”でものづくりの未来を支える

Challenge 01

イノベーションが求められる
 成長分野への注力

- セグメント戦略の部店へ展開による収益力の強化
- 強みを活かした新規ビジネス創出と成長分野への投資
- PR・IR・SR活動による企業ブランド力の向上

Challenge 02

より高付加価値な製品と
 新たなソリューションの提供

- 技術戦略の策定による注力分野の特定とリソースの確保
- SDX(サンワDX)の策定と推進
- グローバルサプライチェーン強靱化のためのソリューション提供

Challenge 03

サステナビリティ経営による
 持続可能な社会の実現に貢献

- SDA推進によるCO₂排出量削減への貢献度の可視化
- 多様な人材育成と活躍推進のための人的資本投資の実施
- 社員エンゲージメント施策の立案、実施、効果測定

■ 海外子会社事務所（成都事務所）開設のお知らせ

当社海外子会社において、このたび以下の通り事務所を開設しました。

- 【名 称】 珊華電子科技(上海)有限公司 成都事務所
SHANGHAI SUN-WA TECHNOS CO., LTD. Chengdu Office
- 【所在地】 四川省成都市成华区双慶路10号 成都華潤中心32階3219号
Room 3219, 32F, Chengdu China Resources Building,
No.10, Shuangqing Rd, Chenghua District, Chengdu,
Sichuan Province, 610051 P. R. C.
- 【開設日】 2023年3月1日（水）



■ 「広報・IR室」新設に関するお知らせ

2023年4月1日付で「経営戦略室」から広報担当を独立した部署として「広報・IR室」を新設しました。当部署はPR・IR・SR活動の専任組織です。PBR（株価純資産倍率）1.0倍超の早期実現を目指し、株主の皆様、投資家の皆様、アナリストの皆様、全てのステークホルダーの皆様に対して、当社の事業や将来性の理解を深める活動に努めます。

■ 「イノベーション本部」新設に関するお知らせ

2023年4月1日付で「イノベーション本部」を新設しました。
当社の技術戦略を立案し、顧客課題の解決を目指した当社独自の技術サポート・ソリューションを担う「ソリューション営業部」「エンジニアリング部」を直轄します。また、エンジニアリング部は研究開発機関として「東京テクニカルセンター」を直轄しました。

■ 「2023年度 サンワテクニカルセミナー'21」開催日のお知らせ

当社のお客様に技術商社として市場動向を捉えた最新の情報をご提供する「サンワテクニカルセミナー'21」を本年度も開催します。

- ◆今年度の開催予定◆
- 2023年10月26日（木）九州地区
 - 2023年11月10日（金）関西地区
 - 2023年12月5日（火）中部地区
 - 2024年2月14日（水）関東地区

開催日が近づきましたら、ホームページ（<https://www.sunwa.co.jp/ir/calendar/index.html>）に詳細を掲載します。

■ 「サンワ100年を描く未来討論会」開催

当社が創立100年を迎える25年後に当社を支える世代による、「サンワ100年を描く未来討論会」を開催しました。3つのグループが30年後の日本及び世界を予測・想像し、バックカスティング思考で、当社が起こすイノベーションについて自由に討議し、模索しました。

次世代が提案するイノベティブな事業、働き方のアイデアを、将来の中期経営計画につなげていきます。

■ 「タウンホールミーティング2022」開催

2022年8月から約10か月かけて、日本国内の社員を対象としたタウンホールミーティングを開催しました。ミーティングの目的は社員が社長をはじめとする経営陣と直接対話しながら、長期経営ビジョン「Sun-Wa Vision 2030」の理解を深めていくことです。

社員一人ひとりから「ビジョンについて抱いた思い」、「自身の働き方、ビジネスについての思いや質問」、「会社への提言」などを、経営陣からは社員へのメッセージを直接伝えあい、自由に意見を交わしました。

今後も経営陣と社員のコミュニケーションの機会として継続していきます。



■ 「日本AED財団」に寄付を実施

当社の基本方針の一つである「サステナビリティ経営」の強化を念頭に重要課題である「健康で安心・安全な暮らし」を推進するため、AED（自動体外式除細動器）の幅広い普及を目的としています。2022年度はAEDによる売上の一部を「日本AED財団」に寄付することを目標の一つに掲げ、日々の拡販活動や年2回の社内キャンペーンを実施しました。その結果、AED設置台数は過去最高を記録し、「日本AED財団」に寄付を行いました。（<https://aed-zaidan.jp/banner.html#anchor2>）

